

平成24年度事業計画書

学校法人新潟青陵学園

目 次

| | |
|----------------------------------|----|
| 序文 | 1 |
| 1 教育方針・教育目標 | 2 |
| 2 沿革 | 9 |
| 3 設置する学校の概要 | 10 |
| 1) 設置する学校・学部・学科等 | 10 |
| 2) 当該学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況 | 11 |
| 3) 役員・教職員の概要等 | 13 |
| 4 事業計画の概要 | 14 |
| 1) 当該年度の事業（経営）の概要 | 14 |
| 2) 当該年度の主な事業の目的・計画 | 22 |
| 5 財務の概要 | 26 |
| 1) 経年比較等 | 26 |
| 2) 過年度の資産総額（純資産額）の推移 | 29 |

平成24年度事業計画書

学校法人新潟青陵学園

新潟青陵学園においては、平成23年度は、東日本大震災の被災地復興支援のために大学院・大学・短期大学部が一丸となり、のべ教職員約70人、学生約200人が、岩手県陸前高田市に出向きガレキ撤去等の活動に当たった。これは本学にとっても教職員及び学生の学校を超えた交流の促進及び教育機関として次代を担う学生に今後の日本のありかたを考させる機会として大きな意義があった。また、新潟青陵高等学校の高大一貫コースでの高校・大学・短期大学部の連携や、大学院大学教員の支援による幼稚園子育て講座の開催など、同一または隣接キャンパスのメリットを生かし全学的な協力体制が進んでいる。平成24年度においても、他の県内学校法人にない、幼稚園、高校、大学、大学院を有する本学園のメリットを十分に生かすため、これまで以上に連携・協調するとともに各学校が単独で行う事業においても常に学園全体の利益を意識して厳しい経営環境を乗り越えていく。

新潟青陵大学・短期大学部においては、景気低迷及び東日本大震災の影響により、県外への進学者が減少したことも幸いし、平成23年度は両大学ともほぼ入学定員を確保できたが、短期大学部においては、人間総合学科・幼児教育学科とも志願者の減少傾向が続いており、特に人間総合学科では、定員確保のため高校とのネットワークづくり、学科の情報提供等を積極的に行った結果、学生募集に効果が表れてきている。これは今後とも継続するとともに、大学とも連携し、効率化・提供情報の拡大を図っていく。しかし、今後はこれまでのような定員を大幅に上回る入学生の確保は期待できず、来るべき18歳人口激減期に備え、校舎の建て替えも含めた魅力アップ、ブランドの確立が求められる。これらを受け、平成24年度においては以下の事業を計画した。大学では、看護福祉心理学部看護学科の附属機関である認定看護師研修センターでの皮膚・排泄ケア認定看護師養成教育が、初期の目的を一応達成したことから平成24年度より一時休校とすることとしたが、看護教育の高度化及び地域ニーズへの対応として、看護学科を基礎とした大学院研究科の設置を進めることとした。短期大学部では、学習及び学生生活を学生自らが記録し、学生自身が振り返るとともに、友人や教職員など第三者の意見も聞くことにより、客観的な自己理解に資する、「キャリアポートフォリオ」システムの導入を試行的に実施する。また、短期大学部をファーストステージとして4年制大学に編入学を希望する学生を支援するため、主として英語の入試対策面から専門的にサポートする教員配置を行う。組織体制については、大学・短期大学部の就職部を統合してキャリアセンターとし、キャリア教育の体系整備から直接的な就職支援までを一貫して行える全学的体制を整備するほか、教務・学生・入試については大学・短期大学部の事務部門を統合し、一本化することで情報の共有化、学生サービスの均一化・事務効率化を図ることとした。キャリア教育においては、大学及び短期大学設置基準においてキャリア教育が義務化されたことを受け、「大学生の就業力育成支援事業（就業力GP）」による事業補助（平成23年度で事業仕分けにより中止）を受けてキャリア教育の体系化・教育課程への導入準備を進めてきたが、平成24年度から本格的な導入を開始する。さらには、経済困窮者を対象とした授業料減免措置対象者とし、看護学科34人（免除額計1千881万円）、福祉心理学科52人（免除額計1千820万円）、人間総合学科40人（免除額計1千148万円）、幼児教育学科26人（免除額計756万円）を措置した。今年度で、本事業は4年目となり、大学においては1年次から4年次までが対象となる。その他の施設

設備関連では、学生の学習・生活環境改善のための4・5号館接続改善工事及び5・6号館渡り廊下自動ドア設置工事、教員研究室のパーソナルコンピュータの更新予算を計上した。

新潟青陵高等学校においては、教育においては、新学習指導要領を踏まえ、英語、数学の少人数教育実施による基礎学力の向上及びキャリア教育充実を図るとともに、普通コース、特進コース及び3年目を迎える高大一貫コースのそれぞれの特徴を生かした教育を推進することに加え、新潟県私立高校魅力アップ補助事業に採択された、英語に特化した教育を行う国際チャレンジコース開設による新たな層の生徒の確保を目指す。またそのために、各コースの特徴・魅力を中学校にきちんと伝えるための、客観的なデータに基づいた効果的な広報に取り組む。また、青陵高等学校経営改善計画に基づき、粛々と経営改善を進める一方で、競合他行に比して著しく見劣りのする設備については、教育環境整備とそれに伴う学生確保のため、必要な整備を行うこととするが、この原資確保方策として、平成24年度入学生より、他校に対して相対的に低額である施設費を他校並みに値上げし、財政的な裏付けを取りながら実施していく。平成24年度は、第3学年の生徒用机・椅子400セットをリニューアル予定である。

新潟青陵幼稚園においては、少子化に加えて周辺地域における就園年齢の幼児数減少による厳しい入園者確保状況への対策として平成23年度より満3歳児クラス新設や預かり保育室の拡張・預かり時間の延長を実施し、早期囲い込みや利用者のサービス向上を図ったことに加え、未就園児対象の「つぼみの広場」事業や、新潟日報広報誌「assh」に本学が連載している「子育て応援隊」との連動企画の「子育て講座」開催といったPR活動・子育て支援活動により、本園の認知度が確実に上がってきており、園児の安定的な確保の素地ができつつある。平成24年度は、これらの事業を継続し、園児確保を確実なものとしていく。

なお、本学園は、学校法人の高い公益性に鑑みて、在学生・保護者等の関係者の理解と協力を得るためにも、積極的に財務の内容を公開し、或いは、教育研究活動等の状況についても積極的に情報を公開し、説明責任と透明性の確保に努めていることを申し添えます。

次に、教育方針・教育目標、沿革、設置する学校の概要、事業計画の概要、財務計画の概要を示す。

1 教育方針・教育目標

＜新潟青陵大学大学院・新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部＞

本学では、“教育方針・教育目標”を設定して、「本学が目指す学生の姿」「本学が目指す教職員の姿」並びに本学の設置母体である新潟青陵学園の「本学園が目指す学園の姿」の三つのポリシーを以下のように提示している。

—— 本学の教育方針・教育目標 ——

一 本学が目指す学生の姿

- 1 学生は、尊敬されるに足る人間として自ら恃(たの)むところを確かにするとともに、自己の能力の実現に努力を惜しまない。
 - (ア) 自他の生命に対する畏敬の念を持ち、お互いに生かされ、助けあっていることに感謝し、広い視野と慈しみの心を持って人間及び社会の本質を理解できる。
 - (イ) 様々なものに感動する心を持ち、それを言葉や音楽、絵画、身体などを通じて創造的に表現できる。

- (ウ) 周囲の現実を把握し、社会にあつては上司、同僚、家族、学内にあつては教職員、友人などと認識を共有し、かつ自己の意見を発表してこれを理解させることができる。
- 2 学生は、社会人として必要な基本的教養と礼儀を身に付けている。
- (ア) 隣人に対して、笑顔で気持ちよく挨拶することができる。
- (イ) 相手の立場を尊重し、意見に耳を傾け、時間や約束が守れる。
- (ウ) 自己責任の原則を理解し、自分の態度や習慣、身だしなみを客観的に評価できる。
- (エ) 弱者を助けるためや、住みよい環境整備のために自らの犠牲をいとわないなど、公共の意義を理解している。
- (オ) 生涯にわたって継続して培う意義がある趣味を持っている。
- 3 学生は、新入社会人として必要な知識、技能を身に付けている。
- (ア) 専門職としての見識と能力を保持し（必要な検定や資格を取得する。）、さらにその向上に努めている。
- (イ) 国内外の政治、経済、社会事情について、新聞などにより、周囲の会話に参加できる程度の一般常識がある。
- (ウ) 人前で3分間程度のスピーチが原稿無しでできる。
- (エ) 読解、計算などの基本的能力に自信を持ち、少なくとも一つ以上の外国語について日常基礎会話ができる。
- (オ) 専門の業務に必要なコンピュータによる情報処理能力を身に付ける。

二 本学が目指す教職員の姿

- 1 本学教職員は、その目的意識（志）、言動、姿勢をもって、学生に感動を伝えることを最大の価値とし、学生から敬愛され、評価される存在である。
- (ア) 学生の人格と立場を尊重し、学業遂行、授業理解支援のために最善の努力を惜しまない。
- (イ) 授業内外の指導、事務の応接などを通じて、人格的な感化を及ぼす存在である。
- (ウ) 学生の態度や習慣、身だしなみを指導するにあたって、率先してその範を示す存在である。
- 2 本学教職員は、地域に貢献し、評価される本学の、価値ある不可欠の構成員である。
- (ア) 本学が目指す姿を自らのものとし、その達成に全力を尽くしている。
- (イ) 自らの属する学部、学科、部課その他のグループ全体の向上、発展のために創意、工夫と献身的努力を惜しまない。
- (ウ) 本学において、上司、同僚及び部下から敬愛される存在である。
- (エ) 地域社会において、よき隣人であると共に、本学を代表して尊敬される存在である。
- 3 本学教職員は、その研究分野又は担当する事務の分野において、本学内外から評価され、尊敬される存在である。

三 本学園が目指す学園の姿

- 1 本学園は、上記の項目に掲げた資質を備えた学生の育成に全力を尽くすとともに、地域の社会人に開かれた存在である。
- (ア) 理事会を中心とするリーダーシップの発揮と教授会、職員会議などによる教職員の意見申し出との調和が図られている。

- (イ) 保護者、卒業生代表、地域、職域代表などからの意見を積極的に吸い上げ、地域に密着する教育目標の設定など学校運営の重要事項に反映している。
 - (ウ) 科目履修など、社会人教育の充実が図られている。
 - (エ) 公開講座、図書館利用など市民の便宜が図られている。
 - (オ) 周辺、近隣地域との結びつきに支えられている。
- 2 本学園は、学生及び地域社会を顧客とし、顧客満足を徹底している。
- (ア) 専門的、目的的教育に関し、地元企業の発展の方向に即している。
 - (イ) 就職活動支援その他学生の面倒見の良いことで知られている。
 - (ウ) 学生の専門的な資格又は検定の取得支援の対策が充分である。
- 3 本学園は、教職員の十分な満足を得ている。
- (ア) 本学園が顧客満足の成果を収め、教職員の創意工夫が活かされているなど、教職員に自己実現の満足感がある。
 - (イ) 本学園が内外の環境変化に対応して発展する意欲と能力を持ち、地域が誇りとし得る学園を目指すなど学園の将来に不安がない。
 - (ウ) 環境問題など今日的な関心事に率先して対応する積極性がある。
 - (エ) 学園の情報は充分に開示され、学園内の意思の疎通に支障がない。
 - (オ) 教職員は、能力とその成果によって酬いられ、かつその待遇は、県内類似の職種に比して劣るところがない。
 - (カ) 男女共同参画社会実現などの勤務環境が保証され、阻害要因是正の為の苦情処理制度が整備されている。

—— 養成しようとする人材像及び教育目標 ——

【新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科】

本学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻の教育研究上の目的は、臨床心理学とその関係分野において実践的な教育と研究を通じ、高度な専門知識を修得させるとともに、職業人として自律した心理臨床家を育成することにある。

【新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科】

看護学科の教育上の目的は、看護に必要な知識と技術を修得させるとともに、広く深い教養と豊かな人間性を培い、看護の専門職として国際社会において貢献することのできる人材を育成することにある。

【新潟青陵大学看護福祉心理学部福祉心理学科】

福祉心理学科の教育上の目的は、生命尊重・人間尊重の理念に基づき、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上を図るため、福祉学・心理学・社会学等の専門知識・技術の応用力、および、豊かな感性、国際感覚を持ち合わせた専門家を養成することにある。

【新潟青陵大学短期大学部人間総合学科】

人間総合学科の教育上の目的は、人生に目的(志)を持ち、それを実現するに十分な表現能力や豊かな感性とライフサイクルに対応して地域社会に貢献できる知識や技術(多様な資格と検定)を身につけた人材を養成することにある。

人間総合学科人間総合コース及び介護福祉コースは、それぞれのコースの特色に基づき、次の3つのポリシー（アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）をもとに、その実現に努める。

■人間総合コース

◇ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

- ① 目的意識を明確にし、自分の教養を高めようとしている人
- ② 将来の展望を持ち、卒業後の進路をしっかりと考えている人
- ③ 学科のカリキュラムを理解し、積極的に学ぼうとする意欲のある人
- ④ 協調性を重んじ、人と人とのコミュニケーションを大切にする人

◇ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

人間総合コースの教育課程は以下の3つの柱からなってる。

① 「就業力」を強化する授業

- ・ビジネスシーンに必要なマナー、文書作成能力、コミュニケーション力を身につけることができる。
- ・社会人としての教養や資質を養う授業を通じて、働く意味を考え、仕事観を確立することが可能となる。

② 一般的なビジネスの素養を身につける授業と資格取得

- ・あらゆるビジネスのベースとなる知識と技能を修得し、基本的な仕事力を養成する。
- ・オフィスワーク、ストアワーク、秘書、情報処理などのビジネス系の資格を広く取得することができる。

③ 専門分野の知識、技能、素養を伸ばす履修コース

- ・「ビジネス・会計実務」「ファッション・インテリア」「フードビジネス」「観光・ブライダル」「英語コミュニケーション・編入学」の履修コースがあり、各自が興味のある分野を追求することができる。
- ・各履修コースの特色ある資格を多く取得することが可能で、卒業後は幅広い業種や職種で活躍できる人材を育てる。
- ・文化、芸術、福祉、子育てなど、ライフスタイルの各段階に応じた教養を身につけ、生活をより豊かなものにする。
- ・希望者には進学（4年制大学への3年次編入）に向けたきめ細かな進路指導を行ない、複数の授業を通じて体系的かつ実践的な受験サポートを提供する。

◇ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

- ① 人を思いやり、人の役に立ちたいという「青陵マインド」を身につけている。
- ② 職業人として社会で求められる「就業力」を備えている。
- ③ 多様な分野での活躍が可能な向上心、知的応用力、協調性がある。

■介護福祉コース

◇ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

- ① 社会福祉や介護福祉の課題に関心を持ち、専門的な知識や技術の修得に努力を惜しまない人

- ② 高齢者や障がいを持つ人の気持ちを理解し、生命の尊さや人間の尊厳を大切にすること
- ③ 豊かな感性を持ち、積極的に高齢者や障がいを持つ人との交流を大切にし、そこで責任ある行動がとれる人
- ④ 介護福祉分野において幅広い職業人としての研鑽を積み、地域社会への貢献を目指す人

◇ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ① 介護福祉士養成課程における、「人間と社会」、「介護」、「こころとからだのしくみ」等の分野ごとの介護の専門的知識・技術を学ぶ。
- ② 人間をその人のおかれている環境の中で理解できる能力を身につけ、相手の立場に立って関わることのできる心豊かな人間を育成する。
- ③ 福祉マインドを持った介護職のリーダーを目指す人材を育成する。

◇ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

- ① 総合的な学力と豊かな人間性を養い、介護福祉士としての知識と技能を兼ねそなえたスペシャリストとして働ける力を身につけている。
- ② 福祉現場で必要とされる円滑なコミュニケーション能力を身につけ、現場では多職種協働によるチームアプローチが必要であることが理解できる。
- ③ 卒業まで学習に励むことによって、問題解決能力を養い、どのような事態に遭遇しても的確な対応ができる能力を身につけている。

【新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科】

幼児教育学科の教育上の目的は、幼児教育分野における実践的教育を通して、万物に対する深い愛と広い視野、豊かな感性をもって保育を創造することができる専門家を養成することにある。

幼児教育学科においても、次の3つの教育方針を掲げ、学科が目指すより質の高い保育者養成に努める。

■ アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

- ① 保育者をめざす高い志と、本学での就学に必要な基礎学力をもつ人
- ② 積極的に学ぶ意欲と、臨機応変に課題を処理する柔軟性をもつ人
- ③ 明朗活発で協調性があり、対人関係を円滑に築くことができる人

■ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ① 保育にかかわる理論とともに実技・実習を重視し、保育者としての実践力を養う。
 - ・ 教職実践演習室での活動を核に、実習に関するサポートをきめ細かく行い、理論と実践の有機的な統合ができるよう配慮する。
- ② 共感する心とそれを表現する力を養い、保育者としての豊かな感性と創造性を育む。
 - ・ 五領域（音・図・体・環境・人間関係）それぞれの表現指導法を設置し、充実を図る。
- ③ 人権尊重の精神を学ぶとともに、社会人としての礼節を身につける。
 - ・ さまざまな保育の現場に対応するために、人権尊重の保育と基本的な礼節を重視し、演習や実習指導に取り組む。

■ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

- ① 保育者としての知識と技能、問題解決能力を身につけている。
- ② 社会から要請される保育を主体的かつ創造的に実践することができる。
- ③ 人権尊重の精神と礼節を重んじ、豊かな人間性を備えている。

<新潟青陵高等学校>

高等学校では、建学の精神（校訓）及び教育目標に基づくとともに、「学校運営の方針」を設定して教育活動に当たり、夢と自信にあふれる生徒を育成する。

— 建学の精神（校訓） —

「至誠」

— 教育目標 —

- ① 意欲的な学習態度を身につけ、個性豊かな創造力を養う。
- ② 明るい学校生活を通して友情と人間愛を養う。
- ③ 自主・自立の精神を養い、勤労意欲を高める。
- ④ 心身共に健康な人間を育成する。

— 学校運営の方針（ビジョン） —

- 1 基礎学力の向上とキャリア教育の推進により生徒の意欲を高め、それぞれの個性に即した進路実現を目指す。
 - ① 入学と同時に学習のしかたと授業規律を丁寧に指導し、意欲的な学習態度を身につけさせる。
 - ② 1学年の英語・数学の授業で少人数教育を実施し、分かる授業の実践と基礎学力の養成を進める。
 - ③ 漢字検定、英語検定、TOEIC、情報処理検定等の外部到達度評価を活用し、資格取得と学力向上に努める。
 - ④ 3年間を通じてキャリア教育を推進し、自らの個性と将来の生き方、進路目標を探求させ、やる気を育てる。
 - ⑤ 3年間を通じた進路指導計画を着実に実施し、大学進学をはじめとする生徒の進路希望を達成させる。
- 2 教職員と生徒、生徒相互の信頼に基づく明るい学校生活を創造し、自主・自律の精神の涵養を目指す。
 - ① 挨拶・時間厳守・身だしなみの「あじみ3原則」を教職員と生徒が共に実践し、明るい学校生活の創造に努める。
 - ② 体育祭や文化祭、球技大会等の学校行事を充実し、教職員と生徒、生徒同士の触れ合いの機会を増やす。
 - ③ 生徒の部活動参加を促進するとともに、全国レベルで活躍する部を支援し、学校全体の活性化を進める。
 - ④ 生徒会や各種委員会の活動等、生徒自身による自発的な活動を支援し、自主・自律の精神を涵養する。
- 3 中学生に選ばれる魅力ある学校づくりを進めるとともに、学校の特色や実践等についての広報活動を積極的に進め、入学志願者の増加を目指す。
 - ① 普通・特進・国際チャレンジ・高大一貫のそれぞれのコースの特色を生かし、魅力ある学校づくりを進める。
 - ② 教職員全員の理解と協力、創意を結集し、新設の国際チャレンジコースを魅力あるコースに育てる。
 - ③ 広報に関する年間計画を作成し、中学校や中学生・保護者・塾等への広報活動を学校全体で進める。

- ④ 広報活動の中心となるホームページの内容や更新について抜本的に改善し、利用者の拡大を促進する。
- 4 日常の授業に関する研究や生徒指導、進路指導等に関する研修の機会を拡充し、教職員の一層の資質向上と面倒見の良い教育を目指す。
- ① 授業公開や研究授業、生徒による授業アンケート等を行ない、分かる授業の実践に役立てる。
- ② 私立高校関係の研修会、行政が実施する研修会等の各種研修会に参加し、教員としての専門性を高める。
- ③ 他の高校等を訪問して教育活動や特色等についての研修を深め、日常の教育実践に生かす。

<新潟青陵幼稚園>

本園は、シュタイナー教育を方針とし、「意欲を持って取り組む子ども、やさしく、賢く、よく遊ぶ子ども」を教育目標に掲げ、人格の基礎を形成することを目指している。また、幼稚園教育要領「遊びを通しての指導を中心として、ねらいが総合的に達成されるようにすること」を踏まえて、“遊び”を中心とした指導を行っている。

以上の“教育方針・教育目標”の下に本園では、以下のポリシーを提示している。

一 本園が目指す幼児の姿

1 主体的に意欲をもって物事に取り組む子ども

幼児が自らの想像力により遊びを作り出していくことができるように、幼児の興味関心を捉えた環境を設定し、じっくりと取り組むことができる場、時間的空間を確保する。

2 友だちを思いやり一緒にいることを楽しみ、よく考え、よく遊ぶ子ども

良質な自然素材を使った環境を構成して、多用な経験を重ねることができるようにし、遊びを通して、物の性質や数、量等を体験して知ることができるようにする。園内および周辺の自然に触れる機会を多く設け、幼児のセンス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見張る感性）を育む。ゆったりとしたリズムのある園生活の時間を設定し、幼児が他児と深いつながりを持ち、自分の気持ちを表現し、相手の気持ちを考えることができる豊かな人間関係を作ることができるよう力を育む。

二 本園が目指す教諭の姿

1 幼児が安心して信頼する存在、模倣の対象として存在する

2 幼児一人ひとりの人格を尊重し、深い愛を持って接する

3 幼児がどのような状態であっても、幼児の気持ちに寄り添い、幼児の思いを理解する

2 沿革

| | | |
|-------|-----|--|
| 明治33年 | 4月 | 下田歌子女史の帝国婦人協会新潟支会により、修業年限3か年の学校「裁縫伝習所」として呱呱の声をあぐ |
| | 7月 | 校名を「新潟女子工芸」と改称 |
| 43年 | 6月 | 西堀通り2番町に校舎新築 |
| 昭和13年 | 1月 | 財団法人組織に変更 |
| 19年 | 4月 | 校名を財団法人新潟高等実践女学校と改称 |
| 21年 | 4月 | 校名を財団法人新潟女子工芸学校と改称 |
| 23年 | 4月 | 学制改革により校名を新潟女子工芸高等学校と改称、併設中学校設置 |
| 26年 | 3月 | 私立学校法により学校法人組織に変更 |
| 32年 | 10月 | 水道町1丁目に校舎新築移転 |
| 35年 | 4月 | 高等学校に普通科増設 |
| 36年 | 4月 | 高等学校の上に修業年限2か年の専攻科（短大の前身）を設置 |
| 37年 | 4月 | 高等学校に商業科増設 |
| 40年 | 4月 | 法人名を新潟青陵学園と改称、新潟青陵高等学校、新潟青陵中学校に校名を改称、新潟青陵女子短期大学を開学（被服科） |
| 42年 | 4月 | 新潟青陵幼稚園を設置 |
| 43年 | 4月 | 短期大学に幼児教育科増設 |
| 45年 | 4月 | 新潟青陵学園寄宿舍（ひめまつ荘）新築 |
| 46年 | 3月 | 高等学校鉄筋4階建校舎増築竣工 |
| 47年 | 4月 | 高等学校鉄筋校舎増築、第2体育館新築竣工 短期大学に専攻科（服飾美術専攻、幼児教育専攻）増設 |
| 48年 | 1月 | 学園用地44,000㎡を購入 |
| 50年 | 4月 | 短期大学被服科を服飾美術科に改称 |
| 57年 | 4月 | 新潟青陵中学校廃止 |
| 61年 | 3月 | 高等学校鉄筋4階建校舎（管理棟）新築 |
| 62年 | 3月 | 高等学校鉄筋2層構造4階建体育館新築 |
| 平成3年 | 4月 | 新潟青陵学園寄宿舍（ひめまつ荘）を廃止し、短期大学教育施設「3号館」に用途を変更 |
| | 4年 | 短期大学服飾美術科を生活文化学科に、幼児教育科を幼児教育学科に改称、新潟青陵幼稚園を新潟青陵女子短期大学附属幼稚園に改称 |
| | 5年 | 短期大学専攻科廃止 |
| | 6年 | 高等学校被服科を生活服飾科に改称 |
| | 8年 | 短期大学に福祉心理学科、国際文化学科増設 |
| 12年 | 4月 | 新潟青陵大学（看護福祉心理学部看護学科、福祉心理学科）開学 |
| 12年 | 10月 | 新潟青陵学園（新潟青陵高等学校）創立100周年記念式典挙行 |
| 13年 | 5月 | 短期大学福祉心理学科廃止 |
| 15年 | 5月 | 高等学校商業科廃止 |

| | | |
|-----|-----|---|
| 16年 | 4月 | 短期大学の名称を新潟青陵大学短期大学部に改称、人間総合学科増設、幼稚園の名称を新潟青陵幼稚園に改称 |
| | 10月 | 大学キャンパスに校舎「5号館」新築 |
| 17年 | 4月 | 新潟青陵大学福祉心理学科にソーシャルワーク、福祉ケア、子ども発達サポート、心理カウンセリングのコース制導入 短期大学部人間総合学科に人間総合、介護福祉のコース制導入 短期大学部生活文化学科、国際文化学科廃止 |
| 18年 | 4月 | 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻（修士課程）開設 |
| 19年 | 3月 | 財団法人短期大学基準協会による平成18年度第三者評価の適格認定を受ける |
| 19年 | 5月 | 大学キャンパス隣接地 1,326.16 m ² を購入 |
| 20年 | 3月 | 財団法人大学基準協会による平成19年度大学評価結果ならびに認証評価結果において大学基準に適合していると認定される |
| | 9月 | 大学キャンパスに校舎「6号館」新築 |
| | 10月 | 新潟青陵大学認定看護師研修センター開設 |
| 22年 | 4月 | 新潟青陵大学創立10周年記念式典挙行 |
| 22年 | 10月 | 新潟青陵学園(新潟青陵高等学校)創立110周年記念式典挙行 |
| 24年 | 5月 | 新潟青陵高等学校生活服飾科廃止 |

3 設置する学校の概要

1) 設置する学校・学部・学科等

新潟青陵大学

| | | |
|-------------|----------|------------|
| 大学院 | 臨床心理学研究科 | (平成18年度開設) |
| 看護福祉心理学部 | 看護学科 | (平成12年度開設) |
| | 福祉心理学科 | (平成12年度開設) |
| 新潟青陵大学短期大学部 | 幼児教育学科 | (昭和43年度開設) |
| | 人間総合学科 | (平成16年度開設) |
| 新潟青陵高等学校 | 生活服飾科 | (昭和23年度開設) |
| | 普通科 | (昭和35年度開設) |
| 新潟青陵幼稚園 | | (昭和42年度開設) |

- 2) 当該学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況
ア、24年度当初予算策定時における学生数の見込み

【新潟青陵大学大学院】

| 学 科 | 入学定員 | 1年 | 2年 | | | 計 | 収容定員 | 充足率 |
|----------|------|----|----|---|---|----|------|------|
| 臨床心理学研究科 | 10 | 12 | 8 | - | - | 20 | 20 | 1.00 |

【新潟青陵大学】

| 学 科 | 入学定員 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 計 | 収容定員 | 充足率 |
|-------------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 看 護 学 科 | 80 | 88 | 86 | 84 | 84 | 359 | 340 | 1.06 |
| | 3年次 10 | | | | | | | |
| 福 祉 心 理 学 科 | 110 | 129 | 130 | 127 | 134 | 537 | 460 | 1.17 |
| | 3年次 10 | | | | | | | |
| 計 | 210 | 217 | 216 | 231 | 232 | 896 | 800 | 1.12 |

【新潟青陵大学短期大学部】

| 学 科 | 入学定員 | 1年 | 2年 | | | 計 | 収容定員 | 充足率 |
|--------|------|-----|-----|---|---|-----|------|------|
| 人間総合学科 | 200 | 200 | 196 | - | - | 396 | 400 | 0.99 |
| 幼児教育学科 | 130 | 130 | 131 | - | - | 261 | 260 | 1.00 |
| 計 | 330 | 330 | 327 | - | - | 657 | 660 | 0.99 |

【新潟青陵高等学校】

| 学 科 | 入学定員 | 1年 | 2年 | 3年 | | 計 | 収容定員 | 充足率 |
|-------|------|-----|-----|-----|---|------|------|------|
| 普 通 科 | 360 | 360 | 328 | 326 | - | 1014 | 1080 | 0.94 |
| 計 | 360 | 360 | 328 | 326 | - | 1014 | 1080 | 0.94 |

【新潟青陵幼稚園】

| 学 科 | 入学定員 | 3才児 | 4才児 | 5才児 | | 計 | 収容定員 | 充足率 |
|-----|------|-----|-----|-----|---|-----|------|------|
| 計 | 50 | 46 | 44 | 53 | - | 143 | 150 | 0.95 |

イ、参考：22年度（募集年度）および23年度（入学年度）の状況

【新潟青陵大学大学院】

| 学 科 | 入学定員 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 入定充足率 | 収容定員 | 現員 | 収容充足率 |
|----------|------|------|------|------|-------|------|----|-------|
| 臨床心理学研究科 | 10 | 15 | 10 | 7 | 0.70 | 20 | 18 | 0.90 |

【新潟青陵大学】

| 学 科 | 入学定員 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 入定充足率 | 収容定員 | 現員 | 収容充足率 |
|-------------|------|------|------|------|-------|------|-----|-------|
| 看 護 学 科 | 80 | 425 | 153 | 86 | 1.08 | 340 | 352 | 1.04 |
| | 3年次 | 10 | 11 | 10 | 0.70 | | | |
| 福 祉 心 理 学 科 | 110 | 535 | 226 | 130 | 1.18 | 460 | 536 | 1.17 |
| | 3年次 | 10 | 8 | 7 | 0.70 | | | |
| 計 | 210 | 979 | 396 | 231 | 1.10 | 800 | 888 | 1.11 |

【新潟青陵大学短期大学部】

| 学 科 | 入学定員 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 入定充足率 | 収容定員 | 現員 | 収容充足率 |
|--------|------|------|------|------|-------|------|-----|-------|
| 人間総合学科 | 200 | 229 | 224 | 199 | 1.00 | 400 | 423 | 1.06 |
| 幼児教育学科 | 130 | 327 | 143 | 130 | 1.00 | 260 | 265 | 1.02 |
| 計 | 330 | 556 | 367 | 329 | 1.00 | 660 | 688 | 1.04 |

【新潟青陵高等学校】

| 学 科 | 入学定員 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 入定充足率 | 収容定員 | 現員 | 収容充足率 |
|-------|------|------|------|------|-------|------|------|-------|
| 普 通 科 | 360 | 896 | 887 | 349 | 0.97 | 1080 | 1008 | 0.93 |
| 生活服飾科 | - | - | - | - | - | 36 | 27 | 0.75 |
| 計 | 360 | 896 | 887 | 349 | 0.97 | 1116 | 1035 | 0.93 |

【新潟青陵幼稚園】

| 3才児 | | | 4才児 | | | 5才児 | | | 収容定員 | 現員 | 収容充足率 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-------|
| 募集数 | 応募数 | 入園数 | 募集数 | 応募数 | 入園数 | 募集数 | 応募数 | 入園数 | | | |
| 46 | 51 | 48 | 若干名 | 5 | 5 | 若干名 | 2 | 2 | 150 | 144 | 0.96 |

3) 役員・教職員の概要等

(平成24年4月1日現在/予定)

| | 氏名 | 就任年月日 | 重任年月日 | 選任条項 |
|-----|---------|-----------|----------|---------|
| 理事長 | 関 昭 一 | 5. 4. 1 | 23. 4. 1 | 短期大学部学長 |
| 理事 | 坂 井 熙 一 | 3. 1. 24 | 23. 4. 1 | 評議員会選任 |
| 理事 | 石 本 隆太郎 | 14. 4. 1 | 22. 4. 1 | 同上 |
| 理事 | 高 橋 登 | 23. 4. 1 | | 同上 |
| 理事 | 大 川 賢 一 | 19. 4. 1 | 23. 4. 1 | 理事会選任 |
| 理事 | 牧 野 庄 三 | 20. 4. 1 | 24. 4. 1 | 同上 |
| 理事 | 本 間 榮三郎 | 22. 4. 1 | | 同上 |
| 理事 | 長 部 夕 ミ | 23. 4. 1 | | 同上 |
| 理事 | 諫 山 正 | 17. 4. 1 | 23. 4. 1 | 大学学長 |
| 理事 | 鈴 木 宏 | 22. 10. 1 | | 評議員会選任 |
| 理事 | 宮 沢 稔 | 20. 4. 1 | | 高等学校長 |
| 監事 | 大 掛 幸 子 | 10. 4. 1 | 22. 4. 1 | 理事長選任 |
| 監事 | 赤 羽 良 樹 | 19. 4. 1 | 23. 4. 1 | 同上 |
| 監事 | 藤 田 普 | 19. 4. 1 | 23. 4. 1 | 同上 |

監事は、理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て理事長が選任する。

イ、当初予算策定時における24年度教職員の見込み（学長・校長・園長を含む）

【新潟青陵大学大学院】

| 学 科 | 教授 | 准教授 | 助教 | 講師 | | 助手 | 計 | | 職員 | |
|----------|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 |
| 臨床心理学研究科 | 5 | 2 | 2 | - | 10 | - | 9 | 10 | - | - |

【新潟青陵大学】

| 学 科 | 教授 | 准教授 | 助教 | 講師 | | 助手 | 計 | | 職員 | |
|--------|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 |
| 看護学科 | 12 | 8 | 6 | 2 | 21 | 9 | 37 | 21 | 8 | - |
| 福祉心理学科 | 13 | 11 | 5 | - | 36 | - | 29 | 36 | 12 | 2 |
| 計 | 25 | 19 | 11 | 2 | 57 | 9 | 66 | 57 | 20 | 2 |

【新潟青陵大学短期大学部】

| 学 科 | 教授 | 准教授 | 助教 | 講師 | | 助手 | 計 | | 職員 | |
|--------|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 専任 | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 |
| 人間総合学科 | 8 | 10 | 2 | - | 38 | - | 20 | 38 | 11 | 1 |
| 幼児教育学科 | 4 | 5 | 2 | 1 | 28 | 1 | 12 | 28 | 8 | - |
| 計 | 12 | 15 | 4 | 1 | 66 | 1 | 32 | 66 | 19 | 1 |

【新潟青陵高等学校】

| 学 科 | 教諭 | 助教諭 | 講師 | | 助手 | 計 | | 職員 | |
|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 |
| 計 | 57 | - | 8 | 21 | - | 65 | 21 | 7 | 1 |

【新潟青陵幼稚園】

| 学 科 | 教諭 | 助教諭 | 講師 | | 助手 | 計 | | 職員 | |
|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 専任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 専任 | 兼任 | 専任 | 兼任 |
| 計 | 6 | - | 2 | 3 | - | 8 | 3 | 2 | - |

4 事業計画の概要

1) 当該年度の事業(経営)の概要

平成24年度の学園全体の資金繰りは「繰越支払資金」が示すようにやや改善見込みである。しかし、大学を除く各校の学生・生徒数の減少及び大学・短期大学部における学費支援に伴う納付金収入の減少と基本金組入の圧迫要因並びに6号館校舎完成後の減価償却額の増加もあって、「消費収支差額」が示すように前年度の2千699万円の赤字から7千141万円へと赤字幅が増大する見込みである。学費支援制度は、4年目となり完成年度を迎え、授業料減免措置額は、大学で3千701万円、短期大学で1千904万円の計5千605万円となる。

大学・短期大学の消費収支の不均衡が、今後も続くため慎重な財務運営が求められる。

なお、平成24年度は財政事情が厳しさを増すなかでも教育の充実・学校の魅力アップという観点から、本事業計画書の序文に記載した事業の展開を目論むこととした。

【繰越支払資金】

| | 前年度繰越支払資金 | 次年度繰越支払資金 | 差引増減 |
|-----|--------------|--------------|-------------|
| 大 学 | 1,007,838 千円 | 1,039,908 千円 | 32,070 千円 |
| 短 大 | 421,623 千円 | 380,823 千円 | △ 40,800 千円 |
| 高 校 | 6,325 千円 | 44,916 千円 | 38,591 千円 |
| 幼稚園 | 100 千円 | 100 千円 | 0 千円 |
| 計 | 1,435,886 千円 | 1,465,746 千円 | 29,860 千円 |

【消費収支差額】

| | 前年度末 | 当年度末 | 差引増減 |
|-----|-------------|-------------|-------------|
| 大 学 | 44,320 千円 | △ 2,550 千円 | △ 46,870 千円 |
| 短 大 | △ 8,560 千円 | △ 52,000 千円 | △ 43,440 千円 |
| 高 校 | △ 53,390 千円 | △ 10,600 千円 | 42,790 千円 |
| 幼稚園 | △ 9,360 千円 | △ 6,260 千円 | 3,100 千円 |
| 計 | △ 26,990 千円 | △ 71,410 千円 | △ 44,420 千円 |

次に、各部門別の事業(経営)の概要を示す。

ア. 新潟青陵大学

学生納付金収入は、大学院及び学部学生については、大学院20人、看護学科359人、福祉心理学科537人、計916人とほぼ前年度並みの学生数で積算したが、看護学科附置認定看護師研修センターの一時休校によりセンター入学生分を減算している。なお、経済的困窮を来している学生に対して1～4年生を対象とし、看護学科対象者34人で1千881万円、福祉心理学科対象者52人で1千820万円の授業料軽減措置を講じた。

手数料収入は前年並みで、補助金収入は、平成23年度より基盤的な私立大学経常費補助金が増額されているが、学生支援GP補助金の事業終了に加えて平成22年度に採択された就業力GP補助金が事業仕分により打ち切りとなったこともあり、対前年比1千920万円の減額予算である。また、事業収入において上記認定看護師研修センター休校により新潟県からの事業委託費分が減算となっている。

人件費支出は補助事業の終了及び認定看護師研修センター休校により、減額で積算した。

教育研究経費支出、管理経費支出にあつては、事務部門の合理化及び効率化を目的とした教務・学生・入試事務部門の短期大学部との統合に伴う事務室改修費用1千万円を短期大学部と按分計上した。施設関係経費支出では、学生の学習・生活環境改善のための4・5号館接続改善工事及び5・6号館渡り廊下自動ドア設置工事560万円を短期大学部と按分計上、設備関係支出では、大学院研究科新設準備として図書及び備品整備費として1千15万円を計上したほか、経年劣化による教員研究室のPC入れ替費用を短期大学部と按分して予算を計上した。

次年度繰越支払資金は10億3千990万円(前年度繰越支払資金は10億783万円)で、やや増加する見込みである。消費収支計算では、授業料減免による収入額の減少及び人件費増、並びに基本金組入れ額及び減価償却費の負担増等が複合して、消費収支差額は255万円の支出超過となり、前年度より悪化する見込みである。

【資金収支】

単位 千円

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|------------|-------------|-----------|
| 帰属収入の計 | 1,440,200 | 人件費支出 | 813,680 |
| (うち、授業料収入 | 1,213,920) | 教育経費・管理経費支出 | 327,500 |
| (うち、補助金収入 | 180,840) | 借入金等返済・利息支出 | 68,520 |
| 借入金等収入 | 0 | 施設関係・設備関係支出 | 92,440 |
| 前受金収入 | 219,150 | 資産運用支出 | 87,750 |
| その他の収入 | 1,970 | その他の支出 | 19,840 |
| | | 〔予備費〕 | 5,000 |
| | | 学校法人経費按分額 | 13,000 |
| 資金収入調整勘定 | △ 219,150 | 資金支出調整勘定 | △ 17,650 |
| 前年度繰越支払資金 | 1,007,838 | 次年度繰越支払資金 | 1,039,908 |
| 計 | 2,449,988 | 計 | 2,449,988 |

【消費収支】

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|------------|--------------|-----------|
| 帰属収入の計 | 1,440,460 | 人件費 | 821,410 |
| （うち、授業料収入 | 1,213,920） | 教育経費・管理経費 | 444,380 |
| （うち、補助金収入 | 180,840） | （うち、減価償却額 | 116,880） |
| | | 借入金等利息 | 4,810 |
| | | 資産処分差額 | 0 |
| | | 債務保証損失引当金繰入額 | 0 |
| | | 〔予備費〕 | 3,000 |
| 基本金組入額 | △ 156,610 | 学校法人経費按分額 | 13,000 |
| 計 | 1,284,050 | 計 | 1,286,600 |
| | | 当年度消費収入超過額 | △ 2,550 |
| | | 前年度繰越消費収入超過額 | △ 138,158 |
| | | 翌年度繰越消費収入超過額 | △ 140,708 |

学生の就職環境は、医療系はほぼ順調であるが一般企業を中心に依然として厳しさが続いており、引き続き出口対策を強化する考えである。学生に対する会社説明会の解禁は3年次の12月と遅くなったが、一般企業希望者が相当数いるため、3年次の前半から就職ガイダンスや就職対策講座を実施し、11月から1月にかけて個別面談を行う。就職活動が本格化する4年次の4月～5月に再度キャリア支援課が学生に対する個別面談を行い、活動状況の把握と実際の活動での問題点・疑問点などについて指導を行っていく。個別面談や就職試験対策などは必要な時期に全学生を対象に行い就職活動に対する適切な指導を行う。

また、24年度は、21年度後半から23年度にかけて取り組んだ「大学教育・学生支援推進事業」（学生支援GP）で構築した学生支援体制、支援メニューなどの成果を引き継ぎ推進するとともに、大学と短期大学部の就職部を一元化してキャリアセンター（キャリア支援課）として情報の集約化・業務効率化等を進めることで、学生支援体制の強化向上を図り、学生が希望する職場に就職できるよう支援する。

さらに、早い段階でのキャリア教育の必要性を重視し、初年次の段階から自己の人生と職業を見据え、自分の適性や潜在能力に開眼し、自らを方向付けていけるよう指導を強化して行くことに加え、教育課程におけるキャリア関係科目の充実を図る。

最後に国家試験対策では、教員による活動を支援し、国家試験合格率を高めるために努力する。

なお、参考までに23年度の職業紹介状況が未確定のため22年度実績を次に示すこととした。

【職業紹介状況】

| 項目 | 看護学科 | | | 福祉心理学科 | | | 計 | | |
|---------|-------|-------|-------|--------|------|------|------|------|------|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 就職希望者数 | 7 | 74 | 81 | 29 | 96 | 125 | 36 | 170 | 206 |
| 就職決定者数 | 7 | 74 | 81 | 26 | 91 | 117 | 33 | 165 | 198 |
| 就職率 (%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 89.7 | 94.8 | 93.6 | 91.7 | 97.1 | 96.1 |

【看護学科】

| | 看護師 | 保健師 | 助産師 | 養護教諭 | その他 | 計 |
|----|-----|-----|-----|------|-----|----|
| 県内 | 36 | 1 | 9 | 7 | - | 53 |
| 県外 | 22 | 1 | 4 | 1 | - | 28 |
| 計 | 58 | 2 | 13 | 8 | - | 81 |

【福祉心理学科】

| | 生活相談員 | 生活支援員 | 介護職 | PSW | MSW | 保育士 | 心理・児童他 | 一般企業等 | 計 |
|----|-------|-------|-----|-----|-----|-----|--------|-------|-----|
| 県内 | 10 | 18 | 28 | 5 | - | 9 | 10 | 30 | 110 |
| 県外 | - | 2 | 1 | 2 | - | - | 1 | 1 | 7 |
| 計 | 10 | 20 | 29 | 7 | - | 9 | 11 | 31 | 117 |

イ. 新潟青陵大学短期大学部

学生納付金収入は、昨年度から行っている学生募集タスクフォースによる高校との関係強化や情報提供が効果を上げてきてはいるが、大幅な入学生の増加は見込めないことから、人間総合学科の新入学生を定員の200人とし、人間総合学科396人、幼児教育学科261人、計657人で積算した。なお、経済的困窮を来している学生に対して人間総合学科対象者40人で1千148万円、幼児教育学科対象者26人で756万円の授業料軽減措置を講じた。手数料収入は前年並みで、補助金収入は、前年度より基盤的な私立大学経常費補助金が増額されたが、学生支援GP補助金の事業終了に加えて平成22年度に採択された就業力GP補助金が事業仕分により打ち切りとなったこともあり、対前年比1千445万円の減額予算である。

人件費支出は補助事業の終了及び学生数減少を鑑み退職者の欠員補充を一部見送ったことにより減額で積算した。教育研究経費支出、管理経費支出にあつては、事務部門の合理化及び効率化を目的とした教務・学生・入試事務部門の短期大学部との統合に伴う事務室改修費用1千万円を大学と按分計上した。施設関係経費支出では、学生の学習・生活環境改善のための4・5号館接続改善工事及び5・6号館渡り廊下自動ドア設置工事560万円を大学と按分計上、設備関係支出では、経年劣化による教員研究室のPC入れ替費用を大学と按分して予算を計上した。

次年度繰越支払資金は、入学生の減少及び高等学校の内部貸付金が定額返済となったこと等もあり3億8千82万円（前年度繰越支払資金は4億2千62万円）と減少する見込みである。また、消費収支計算では入学生減少及び基本金組入れ額の増大等により消費収支差額は5千200万円の支出超過となった。

【資金収支】

単位 千円

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 帰属収入の計 | 754,130 | 人件費支出 | 447,320 |
| （うち、授業料収入 | 639,030） | 教育経費・管理経費支出 | 190,940 |
| （うち、補助金収入 | 88,570） | 借入金等返済・利息支出 | 52,220 |
| 借入金等収入 | 0 | 施設関係・設備関係支出 | 32,830 |
| 前受金収入 | 236,300 | 資産運用支出 | 65,980 |
| その他の収入 | 3,030 | その他の支出 | 7,120 |
| | | 〔予備費〕 | 4,100 |
| | | 学校法人経費按分額 | 7,270 |
| 資金収入調整勘定 | △ 237,640 | 資金支出調整勘定 | △ 4,150 |
| 内部取引勘定 | 61,909 | 内部取引勘定 | 54,899 |
| 前年度繰越支払資金 | 421,623 | 次年度繰越支払資金 | 380,823 |
| 計 | 1,239,352 | 計 | 1,239,352 |

【消費収支】

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|----------|--------------|----------|
| 帰属収入の計 | 754,280 | 人件費 | 451,520 |
| （うち、授業料収入 | 639,030） | 教育経費・管理経費 | 258,930 |
| （うち、補助金収入 | 88,570） | （うち、減価償却額 | 67,990） |
| | | 借入金等利息 | 3,680 |
| | | 資産処分差額等 | 0 |
| | | 債務保証損失引当金繰入額 | 0 |
| | | 〔予備費〕 | 3,360 |
| 基本金組入額 | △ 81,520 | 学校法人経費按分額 | 7,270 |
| 計 | 672,760 | 計 | 724,760 |
| | | 当年度消費収入超過額 | △ 52,000 |
| | | 前年度繰越消費収入超過額 | 554,905 |
| | | 翌年度繰越消費収入超過額 | 502,905 |

学生の出口対策にあつては、引き続き、雇用状況の悪化が懸念されることから、就職支援対策の各々について更なる検討・強化を図り、22年度及び23年度（未確定）実績を堅持することを目標とする。入学時から複数用意されている進路支援関連カリキュラムに加え、就業力GP採択を受けて設置したキャリア関係新設3科目を実施する。また、大学・短期大学部就職部を統合した「キャリアセンター」を設置し、更なる情報の集約化・業務効率化、多くのサービス提供等を進めることで、学生支援体制の充実を図ると共に、大学・短期大学共通のキャリア教育体制の開発・構築による中長期的な就職支援と短期的な就職指導の融合による相乗効果を狙う。具体的には、面接・筆記試験対策をはじめ、学生と企業の出会いの場である本学合同企業説明会等の各種支援事業などを通じて、学生の就職活動を強力にバックアップしていく。更に、教員・キャリア支援課スタッフとの個人面

談をキメ細かく行うと共に、保護者を対象とした個人懇談会も実施し、家庭、学生、大学間の関係を密にし、情報を共有することで、厳しい就職状況に攻めの姿勢で臨んでいく。

なお、参考までに23年度の職業紹介状況が未確定のため22年度実績を次に示すこととした。

－ 22年度事業報告書の再掲 －

【職業紹介状況】

| 項目 | 人間総合学科 | | | 幼児教育学科 | | | 計 | | |
|---------|--------|------|------|--------|-------|-------|-------|------|------|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 就職希望者数 | 7 | 199 | 206 | 8 | 126 | 134 | 15 | 325 | 340 |
| 就職決定者数 | 7 | 187 | 194 | 8 | 126 | 134 | 15 | 313 | 328 |
| 就職率 (%) | 100.0 | 94.0 | 94.2 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 96.3 | 96.5 |

ウ. 新潟青陵高等学校

生徒納付金収入は、3年目を迎える高大一貫コースの認知度アップ及び新潟県私立高校魅力アップ補助事業採択の国際チャレンジコース開設等を鑑み、1年生は定員の360人とし、合計1千14人の積算人数で積算した。また、今年度入学生より市内の他の私立高等学校より低かった施設費を値上げし、原資を確保したうえで設備の更新等を図ることとした。一方で、他校と同程度に入学金減免措置を拡充し、入学時の費用負担を軽減することで生徒確保に資することとした。これらのことから、前年度に比してやや増加の積算となった。補助金は、前述の補助事業をあわせて、ほぼ昨年度並みとした。

一方、人件費支出は、「新潟青陵高等学校経営改善計画」に基づく計画的な人件費抑制と前述の新潟県私立高等学校魅力アップ事業の本格実施及び新学習指導要領に沿った基幹科目の少人数教育のための教員採用をあわせて前年比2千28万円の減算積算することとした。設備関係支出は、施設費の増額を原資とした、生徒用机・椅子400セットのリニューアル(3学年)604万円を計上した。

経営改善計画により、平成23年度より内部取引勘定(前年度短期大学部からの借り入れ金)を1千万円の定額返済としたことにより、次年度繰越支払資金は4千491万円と増額となる見込みである。単年度の消費収支差額は、前年度の消費支出超過額(赤字額)5千390万円から1千60万円の支出超過へと減少した。

なお、改善計画によれば、平成24年度より短期大学部からの内部借り入れは行わない計画であるため、今後は、改善計画の着実な実行と、生徒の確実な確保がより一層重要であるといえる。

【資金収支】

単位 千円

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|----------|-------------|---------|
| 帰属収入の計 | 781,290 | 人件費支出 | 561,050 |
| （うち、授業料収入 | 397,560） | 教育経費・管理経費支出 | 135,570 |
| （うち、補助金収入 | 357,020） | 借入金等返済・利息支出 | 10,110 |
| 借入金等収入 | 0 | 施設関係・設備関係支出 | 13,540 |
| 前受金収入 | 46,400 | 資産運用支出 | 0 |
| その他の収入 | 6,090 | その他の支出 | 3,380 |
| | | 〔予備費〕 | 4,520 |
| | | 学校法人経費按分額 | 7,910 |
| 資金収入調整勘定 | △ 51,050 | 資金支出調整勘定 | △ 1,990 |
| 内部取引勘定 | 0 | 内部取引勘定 | 10,000 |
| 前年度繰越支払資金 | 6,326 | 次年度繰越支払資金 | 44,916 |
| 計 | 789,056 | 計 | 789,056 |

【消費収支】

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|----------|--------------|------------|
| 帰属収入の計 | 782,120 | 人件費 | 561,050 |
| （うち、授業料収入 | 397,560） | 教育経費・管理経費 | 195,940 |
| （うち、補助金収入 | 357,020） | （うち、減価償却額 | 60,370） |
| | | 借入金等利息 | 1,310 |
| | | 資産処分差額等 | 0 |
| | | 債務保証損失引当金繰入額 | 0 |
| | | 〔予備費〕 | 3,340 |
| 基本金組入額 | △ 23,370 | 学校法人経費按分額 | 7,910 |
| 計 | 758,750 | 計 | 769,350 |
| | | 当年度消費収入超過額 | △ 10,600 |
| | | 前年度繰越消費収入超過額 | △2,024,133 |
| | | 翌年度繰越消費収入超過額 | △2,034,733 |

本校に入学する生徒の実態を踏まえ、今年度新たに導入する英語、数学の少人数教育などで基礎学力の向上を目指すとともに、将来の生き方や進路目標を生徒自ら探求するキャリア教育の推進により生徒の意欲を高め、それぞれの個性に即した進路実現を目指す。

日常の学校生活や体育祭・文化祭等の学校行事、部活動などを通じて、教職員と生徒、生徒相互がお互いに触れ合う機会を増やし、信頼に基づく明るい学校生活を創造するとともに、生徒会活動等を支援し、生徒の自主・自律の精神の涵養を目指す。

今年度開設する国際チャレンジコースをはじめ、普通コース、特進コース、高大一貫コースのそれぞれの特色を生かし、中学生に選ばれる魅力ある高校づくりを進めるとともに、ホームページの改善等により学校の特色や実践等についての広報活動を積極的に進め、入学志

願者の増加を目指す。

昨年度から始めた生徒による授業アンケート等により日常の授業に関する研究を深めるとともに、生徒指導、進路指導等に関する各種研修会等への参加の機会を拡充するなどして、教職員の一層の資質向上を図り面倒見の良い教育を目指す。

エ. 新潟青陵幼稚園

園児納付金収入は積算園児数143人と、昨年並みで積算したが、未就園児対象のつぼみの広場参加者が倍増していること、平成23年度に新設した満3歳児クラスがほぼ予定通り園児確保ができていていること、また広報と子育て講座の連動実施のPR効果等により、少子化状況下の中、安定した園児確保に向けた素地ができてきている。人件費支出は、バス添乗員の勤務条件を変更等によりやや増額となっが、消費収支計算は、支出超過額が昨年度より310万円減少した。

【資金収支】

単位 千円

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|---------|-------------|---------|
| 帰属収入の計 | 76,000 | 人件費支出 | 56,990 |
| （うち、授業料収入 | 43,590） | 教育経費・管理経費支出 | 20,210 |
| （うち、補助金収入 | 30,380） | 借入金等返済・利息支出 | 0 |
| 借入金等収入 | 0 | 施設関係・設備関係支出 | 750 |
| 前受金収入 | 1,840 | 資産運用支出 | 0 |
| その他の収入 | 0 | その他の支出 | 1,080 |
| | | 〔予備費〕 | 230 |
| | | 学校法人経費按分額 | 880 |
| 資金収入調整勘定 | △ 1,780 | 資金支出調整勘定 | △ 1,080 |
| 内部取引勘定 | 54,899 | 内部取引勘定 | 51,909 |
| 前年度繰越支払資金 | 100 | 次年度繰越支払資金 | 100 |
| 計 | 131,069 | 計 | 131,069 |

【消費収支】

| 収入科目 | 金額 | 支出科目 | 金額 |
|-----------|---------|--------------|-----------|
| 帰属収入の計 | 76,200 | 人件費 | 56,990 |
| （うち、授業料収入 | 43,590） | 教育経費・管理経費 | 23,490 |
| （うち、補助金収入 | 30,380） | （うち、減価償却額 | 3,280） |
| | | 借入金等利息 | 0 |
| | | 資産処分差額等 | 0 |
| | | 債務保証損失引当金繰入額 | 0 |
| | | 〔予備費〕 | 150 |
| 基本金組入額 | △ 950 | 学校法人経費按分額 | 880 |
| 計 | 68,090 | 計 | 81,510 |
| | | 当年度消費収入超過額 | △ 6,260 |
| | | 前年度繰越消費収入超過額 | △ 342,283 |
| | | 翌年度繰越消費収入超過額 | △ 348,543 |

2) 当該年度の主な事業の目的・計画

ア. 新潟青陵大学

本学は、本学の教育理念である「生命尊重・人間尊重の理念に基づき、国民の福祉と健康を支え、全人的な視点からこれを保障するという社会の要請に応えるとともに、クオリティ・オブ・ライフ（QOL）の向上を実現すべく、看護学科と福祉心理学科の連携のもとに教育・研究を行い、医療福祉面での地域社会に貢献できる人材の養成」という実学教育の実現を目指している。

看護学科では、「① 人間・生命の尊厳を守る意識を培い、自己の資質の向上に努める能力を養う。②他者を尊重し、自己をも尊重する建設的な人間関係を形成する能力を養う。③看護に必要な知識・技術を学習することによって、よりよい看護実践ができる基礎的能力を養う。④看護の諸現象について、論理的な思考のもとに、適切な情報の収集、科学的な分析、理論的な判断を用いて、有効な対応を考察できる能力を養う。⑤専門的知識・技術を用いて、科学的な根拠に基づく安全・安楽な援助を提供できる能力を養う。⑥社会における看護が担うべき役割を認識し、保健医療福祉領域の専門職および地域の人々との協力・連携のもとに、看護の発展に寄与する能力を養う。⑦国際的な視野をもち、創造的な思考を深め、専門職業人として社会に貢献できる能力を養う。」という教育目標を掲げている。また、看護学科では看護師と保健師の一貫養成を行い、希望者には助産師もしくは養護教諭一種免許状を取得できるプログラムを用意している。

福祉心理学科では、「①人間の命と尊厳を守る力を育てる。②人間を支えるための土台を識（し）る。③人間を見つめ、社会との関連を考える。④人間や地域と関わっていく精神を学ぶ」という教育目標を掲げている。「ひと」を中心として、「社会」への広がり、「心」への深化とを探究し、出生から高齢及び死に至るまでのライフサイクルをカバーする。具体的には、本格的な少子・高齢社会の進展に対応し、ノーマライゼーション社会の実現を目指す担い手となるため、保健、福祉、心理、医療に関する幅広い視点をそなえた専門職養成プログラム（社会福祉士、精神保健福祉士、認定心理士、介護福祉士、保育士、カウ

ンセリング実務士、高等学校福祉科・公民科教員）を用意するだけでなく、学外におけるさまざまなボランティア活動への支援を行い、一般企業等においてもその学びを活かして活躍する「福祉マインド」をそなえた学生を地域社会へと送り出す。

大学院臨床心理学研究科では、臨床心理学に対する精深な学識を基に、広い視野をもって心理臨床の場に臨める、「心の専門家としての高度専門的職業人」「地域や文化に職務を通して貢献できる高度専門職業人」「実践的で有効な援助が可能な技術と人格を備えた高度専門的職業人」の育成を目指している。さらに、大学院に研究生制度を置くことにより、高度専門的職業人としての卒業教育が可能となり、研修会や自主ゼミが活発に行われている。なお、日本臨床心理士資格認定協会による第一種指定大学院の必備の施設である新潟青陵大学大学院臨床心理センターは、院生の実習施設であり、市民からの心の相談に応じている。

イ. 新潟青陵大学短期大学部

本学は、人間総合学科と幼児教育学科を擁し、地域と時代のニーズに応えられる人材育成を目標に掲げている。学生には社会人として自立する基盤となる専門的な知識、技能の取得を積極的に促し、社会人にはスキルアップのための生涯学習の場として価値ある情報を提供することを目指している。

人間総合学科人間総合コースは、学生の興味、関心、取得希望資格等に対応する多様な履修形態を可能にすることを特色としている。

幅広く学べる自由さと、特定の分野を集中して体系的に学ぶことを同時に満足させるため、アドバイザー制をもとにしたきめ細かな履修指導を行っている。学科の認定資格（単位修得によって取得できる）であるビジネス実務士、衣料管理士、フードスペシャリスト等、対策授業を経て検定試験受験により取得可能なカラーコーディネーター、医療事務、国内旅行業務取扱管理者等々、多様な職業に必要な知識と技能を授け、幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的としている。また、人間総合学科介護コースは、介護に関する知識と技術の習得を目的とした厚生労働省が指定する介護福祉士養成施設であって、あたたかい心を持った「介護のスペシャリスト」の育成に努めている。両コースとも社会人として必要なマナーを身につけ、就業力を備えた人材の育成を目標として掲げている。

幼児教育学科は、幼稚園教諭と保育士の養成を目的にしている。教育基本法と児童福祉法の理念に基づき、将来を担う子どもの保育と教育の向上を目指して、ひとり一人の子ども最善の利益のために努力し、自らを成長させる人間性豊かな保育者を育成することを教育理念に掲げ、学科の全教員の共通理解の下で学生をきめ細かく指導する体制をとっている。また、学科が目指す質の高い保育者養成が、保育現場からの支持と高い評価を得られるよう努めている。

さらに、社会人としてのマナー指導も徹底して行うことにしている。

学生が自立して仕事を探し、社会人として通用するように、文部科学省は設置基準を改正し、大学、短大の教育課程に職業指導（キャリアガイダンス）などを盛り込むことが義務化されている。人間総合学科では、既に設立当初より進路支援および就業体験などのカリキュラム化を行い、就職状況や学生ニーズに合わせてその改善を行ってきた。今年度はさらに大学と合同で就業力G Pに採用されたプログラムをもとに、初年次よりキャリア教育科目の充実を図るとともに、キャリアフィールド内により実践的な科目群を設置し、社会

に出ても自力で人生を切り開ける就業力を養うため、各種講座や体験実習等の実施との相乗効果を狙い、併せて就職部門の再整備を進めている。

ウ. 新潟青陵高等学校

建学の精神（校訓）及び教育目標に基づくとともに、学校運営の方針を設定して教育活動に当たり、夢と自信にあふれる生徒を育成する。

(1) 基礎学力の向上とキャリア教育の推進

1 学年から学習に対する姿勢をしっかりと確立するため、4 月の新入生オリエンテーションで、日常の学習のしかたや授業の受け方について指導し、意欲的な学習態度を身につけさせる。また、今年度から新たに、1 学年の生徒全員を対象に、数学と英語の授業で義務教育段階の学習の点検と補充を行う。特に基礎学力が身につけていない生徒が多い普通コースでは、少人数習熟度別授業できめ細かい指導を行う。同時に、各種検定試験の外部到達度評価を積極的に導入し、資格取得と学力の向上を図る。さらに、1 学年から、将来の生きかたや進路を探究させるキャリア教育に力を入れ、生徒のやる気、意欲を高め、3 年後の進路実現を目指す。

(2) 信頼に基づく学校生活と自主・自律の精神の涵養

教師と生徒、生徒相互の信頼関係は教育の根幹である。この考えに立って、授業をはじめ学校行事の充実、部活動の活性化を進め、人間的触れ合いのある教育環境作りに努める。挨拶・時間厳守・身だしなみについては、生徒にやらせるという考えでなく教職員の方から率先垂範を心がけたい。また、部活動への参加を積極的に促進するとともに、バドミントン、卓球、バレーボールの3つの部については、全国レベルの活躍ができるよう、スポーツ推薦制度の充実等の条件整備にも力を入れたい。さらに、最近自主的・自律的な行動が取れない生徒が多くなっているため、生徒会、各種委員会などで生徒自身による活動を促し、自主的・自発的な活動を一層奨励し、自主・自律の精神を育てるよう努める。

(3) 魅力ある学校づくりと広報活動の推進

普通・特進のオーソドックスなコースと国際チャレンジ・高大一貫の特色あるコースのそれぞれの特長を生かして、魅力ある学校づくりを進めていく。特に今年度は、新設の国際チャレンジコースがねらい通りの成果を上げることができるよう、全力を尽くす。また、現在、本校で大きな課題になっている広報活動の遅れを改善し、入学志願者の増加を期す。どんなに改革や改善を進めても、その情報が中学校や中学生に届かなければ生徒募集に結びつかない。広報の中心となるホームページの抜本的な改善をはじめ、必要な改善を行ない、広報活動を積極的に進めていく。このため、有能なスタッフを募り、広報についての年間計画を作成し、組織的に取り組んでいく。

(4) 教職員の研修機会等の拡充

「教育は人なり」の言葉どおり、学校が発展していくには、教育への使命感と生徒への愛情をもった教職員がどれだけいるかがカギである。すべての教員が生徒による授業アンケート等を実施し、分かる授業の実践に努めていく。また、とかく「井の中の蛙」になりがちな私立高校の教員にとって、各種研修会に参加して専門的知識を学ぶことや他の高校の教育活動の様子を見て見聞を広めることは重要なことであるため、今年度も計画的に実施していく。

エ. 新潟青陵幼稚園

シュタイナー教育が目指す、「真に思考力のある自立した人間」となるために、幼児期にはその基礎となる意志、感性、感情を育てることが求められている。本年度の教育目標は、意志のもととなる『意欲を持って生活する子ども』とし、この実現のため、次の4つの子どもの姿を目指し取り組む。

①「じっくりと物事に取り組む子ども」

静と動のバランスの取れた一定した生活リズムにおいて、子どもの情緒の安定をはかり、自立の基礎となる基本的な生活習慣を身につける。また、子ども自身が持っている想像力を発揮できるように自然素材の教材や環境を構成し、自ら遊びを創造する力を育てる。

②「友だちとよく遊ぶ子ども」

近年、人との関わりが苦手な青少年が増えている現状を踏まえ、人間関係の発達に重点をおく。遊びを楽しむ過程において友だちと積極的にかかわり、自分の考えを話し、友達の考えを聞こうとし、友だちと折り合いをつけるために話し合うことができる子どもを育てる。また、集団生活におけるルールを守ることによって、お互いが気持ちよく生活することができることに気づかせ、ルールを守ろうとする態度を養う。

③「思いやりのあるやさしい子ども」

子どもどうしの気持ちを保育者が伝える役割を果たし、子どもがお互いの気持ちを知り、助けようとする気持ちを育てる。園周辺の自然環境を利用し、自然に親しみ興味関心を持ち自然の変化や美しさに感動する豊かな感性を育む。

④「よく考え判断し行動する子ども」

やりたい気持ちを実現することができる環境を作り、子どもが満足感を味わうことができる経験を積み重ねることができるようにし、目的を持って物事に取り組み考え工夫する力を育てる。

5 財務の概要

1) 経年比較等

ア、貸借対照表

当初予算策定時に23年度及び24年度を確定及び予測することは困難なため、19～22年度分を参考までに掲載することとした。

| 比率 (×100) | | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|------------|---------------|-------|-------|-------|-------|
| 消費収支差額構成比率 | <u>消費収支差額</u> | △21.9 | △23.4 | △18.9 | △19.1 |
| | 脚注 (a) | | | | |
| 基本金比率 | <u>基本金</u> | 92.3 | 92.2 | 92.9 | 94.8 |
| | 脚注 (b) | | | | |
| 固定比率 | <u>固定資産</u> | 100.4 | 106.4 | 102.5 | 100.1 |
| | 脚注 (c) | | | | |
| 固定長期適合率 | <u>固定資産</u> | 88.6 | 94.1 | 91.9 | 91.3 |
| | 脚注 (d) | | | | |
| 流動比率 | <u>流動資産</u> | 215.8 | 163.4 | 196.3 | 206.2 |
| | 流動負債 | | | | |
| 前受金保有率 | <u>現預金</u> | 277.0 | 194.7 | 236.0 | 263.5 |
| | 前受金 | | | | |
| 総負債比率 | <u>負債</u> | 19.6 | 19.0 | 17.3 | 15.7 |
| | 総資産 | | | | |
| 負債比率 | <u>負債－前受金</u> | 13.2 | 12.5 | 11.7 | 10.4 |
| | 総資産 | | | | |
| 基本金実質組入率 | <u>脚注 (c)</u> | 72.5 | 88.5 | 89.7 | 77.3 |
| | 脚注 (b) | | | | |

a = 負債 + 基本金 + 消費収支差額

b = 基本金 + 基本金未組入額

c = 基本金 + 消費収支差額

d = 基本金 + 消費収支差額 + 固定負債

イ、消費収支計算書

24年度は当初予算、23年度は最終補正予算による分析数値を掲載した。

【人件費比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼稚園 | 学園全体 | 比率 (×100) |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| 24 | 57.02 | 59.86 | 71.73 | 74.79 | 62.56 | 人件費 帰属収入 |
| 23 | 57.35 | 60.31 | 78.27 | 72.19 | 64.70 | |
| 22 | 55.42 | 51.06 | 70.50 | 64.99 | 61.79 | |
| 21 | 52.50 | 47.91 | 82.86 | 67.88 | 59.63 | |
| 20 | 54.12 | 58.39 | 85.06 | 75.08 | 63.35 | |
| 19 | 57.10 | 56.91 | 88.57 | 78.11 | 65.99 | |

24年度は退職金を計上していないこと。

【教育研究経費比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼稚園 | 学園全体 | 比率 (×100) |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 2 4 | 22.70 | 23.84 | 18.64 | 15.43 | 21.76 | 教育研究経費 帰属収入 |
| 2 3 | 21.50 | 21.38 | 16.22 | 14.94 | 19.88 | |
| 2 2 | 25.12 | 20.64 | 14.82 | 16.61 | 21.02 | |
| 2 1 | 20.65 | 15.79 | 14.10 | 17.38 | 17.57 | |
| 2 0 | 21.01 | 18.55 | 18.58 | 18.91 | 19.71 | |
| 1 9 | 21.38 | 19.27 | 16.28 | 16.40 | 19.32 | |

【管理経費比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼稚園 | 学園全体 | 比率 (×100) |
|-----|------|-------|------|-------|------|--------------|
| 2 4 | 8.15 | 10.49 | 6.42 | 15.39 | 8.79 | 管理経費 帰属収入 |
| 2 3 | 8.39 | 10.39 | 8.04 | 15.70 | 9.32 | |
| 2 2 | 8.32 | 8.68 | 6.45 | 16.11 | 8.39 | |
| 2 1 | 6.75 | 6.96 | 4.42 | 17.57 | 6.71 | |
| 2 0 | 7.53 | 8.30 | 3.57 | 15.87 | 7.26 | |
| 1 9 | 8.12 | 8.89 | 2.77 | 22.42 | 7.47 | |

【消費収支比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼稚園 | 学園全体 | 比率 (×100) |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------------|
| 2 4 | 100.20 | 107.73 | 101.40 | 108.3 | 102.56 | 消費支出 消費収入 |
| 2 3 | 96.77 | 101.10 | 106.09 | 113.21 | 100.87 | |
| 2 2 | 103.68 | 96.62 | 102.97 | 99.56 | 101.58 | |
| 2 1 | 87.70 | 79.56 | 103.74 | 105.81 | 90.04 | |
| 2 0 | 103.63 | 107.76 | 111.52 | 111.22 | 107.10 | |
| 1 9 | 104.63 | 110.34 | 110.56 | 117.45 | 109.18 | |

【経常経費依存率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼稚園 | 学園全体 | 比率 (×100) |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|
| 2 4 | 105.99 | 113.42 | 193.52 | 186.99 | 124.76 | 消費支出 納付金 |
| 2 3 | 108.22 | 116.47 | 237.37 | 181.35 | 133.63 | |
| 2 2 | 111.60 | 100.03 | 216.40 | 171.44 | 126.65 | |
| 2 1 | 108.39 | 96.63 | 244.17 | 176.35 | 127.16 | |
| 2 0 | 103.54 | 100.60 | 242.71 | 196.70 | 125.26 | |
| 1 9 | 103.54 | 99.91 | 257.12 | 195.20 | 128.90 | |

【納付金比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼稚園 | 学園全体 | 比率 (×100) |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| 2 4 | 84.27 | 84.72 | 50.83 | 57.20 | 75.14 | 納付金 帰属収入 |
| 2 3 | 82.55 | 81.26 | 43.85 | 57.44 | 71.12 | |
| 2 2 | 82.21 | 84.89 | 45.82 | 57.74 | 72.71 | |
| 2 1 | 75.43 | 75.70 | 42.00 | 58.97 | 66.82 | |
| 2 0 | 81.37 | 87.08 | 45.08 | 56.35 | 73.41 | |
| 1 9 | 84.76 | 87.17 | 42.01 | 60.01 | 73.35 | |

【寄付金比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼稚園 | 学園全体 | 比率 (×100) |
|-----|------|------|------|------|------|-------------|
| 2 4 | 0.02 | 0.02 | 0.23 | 0.26 | 0.08 | 寄付金 帰属収入 |
| 2 3 | 0.02 | 0.02 | 0.20 | 0.26 | 0.07 | |
| 2 2 | 0.23 | 0.27 | 3.71 | 0.25 | 1.16 | |
| 2 1 | 0.06 | 0.33 | 0.29 | 0.57 | 0.20 | |
| 2 0 | 0.03 | 0.01 | 0.35 | 0.31 | 0.11 | |
| 1 9 | 0.06 | 0.00 | 0.30 | 0.59 | 0.12 | |

【補助金比率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼稚園 | 学園全体 | 比率 (×100) |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| 2 4 | 12.55 | 11.74 | 45.65 | 39.87 | 21.51 | 補助金 帰属収入 |
| 2 3 | 13.47 | 12.42 | 40.00 | 39.66 | 21.03 | |
| 2 2 | 13.50 | 10.14 | 41.76 | 38.68 | 20.69 | |
| 2 1 | 14.29 | 9.23 | 43.81 | 37.66 | 20.71 | |
| 2 0 | 15.59 | 8.11 | 48.75 | 34.71 | 22.17 | |
| 1 9 | 11.93 | 8.92 | 46.96 | 36.68 | 21.09 | |

【基本金組入率】

| 年度 | 大 学 | 短期大学 | 高等学校 | 幼稚園 | 学園全体 | 比率 (×100) |
|-----|-------|-------|------|------|-------|----------------|
| 2 4 | 10.86 | 10.81 | 2.99 | 1.25 | 8.59 | 基本金組入額 帰属収入 |
| 2 3 | 7.67 | 6.39 | 1.89 | 7.99 | 5.78 | |
| 2 2 | 11.51 | 12.12 | 3.70 | 0.56 | 9.34 | |
| 2 1 | 6.77 | 8.05 | 1.14 | 1.73 | 5.62 | |
| 2 0 | 18.71 | 18.70 | 1.88 | 0.33 | 14.14 | |
| 1 9 | 16.12 | 21.07 | 2.31 | 0.26 | 13.41 | |

2) 過年度の資産総額（純資産額）の推移

当初予算策定時に23年度及び24年度を確定及び予測することは困難なため、18～22年度分を参考までに掲載することとした。

単位 円

| 年度 | 基本金組入額 | 消費収支差額 | 純資産額 |
|----|----------------|-----------------|---------------|
| 22 | 10,430,259,167 | △ 1,922,679,212 | 8,507,579,955 |
| 21 | 10,119,595,019 | △ 1,881,115,194 | 8,238,479,825 |
| 20 | 9,913,673,027 | △ 2,225,375,469 | 7,688,297,558 |
| 19 | 9,444,969,615 | △ 2,023,425,018 | 7,421,544,597 |
| 18 | 9,007,477,443 | △ 1,763,895,699 | 7,243,581,744 |